



第66号

2020年11月15日発行

発行所

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団

障がい者総合福祉施設アガペセンター

〒252-0002 座間市小松原 2-10-14

TEL 046-254-7111 FAX 046-255-2915

ホームページアドレス

<http://www.agape-jcws.com>



忘れてはいけない出来事

アガペセンター長

田中 誠一

今年、歴史的な日本の四季行事ともいえる春の「さくら祭り」夏の「花火大会」なども自粛され視覚・聴覚・体感する季節を得ることができなく残念でした。

年明け早々に近隣国からもたらされた「新型コロナウイルス」感染症のニュース、そしてダイヤモンドプリンセス号の横浜埠頭接岸による感染者の搬送と船内感染内容が日々伝えられるとともに、見る見るうちに北半球に蔓延すると南半球でも猛威を振るい、それまでの社会常識は覆され、新たな感染症になすすべく立ち尽くしている人類の無力さを痛感させられました。

さて、今回の広報アガペに「コロナ禍におけるアガペセンターの取組み」についての寄稿を求められました。他に語れる対策は何もできていませんが、今日までの近況をお知らせします。

私ども、障がい者総合福祉施設「アガペセンター」は、障害者総合支援法・児童福祉法に基づいた多種・多様な事業を実施しておりますが、それぞれの事業は、障害

特性等に配慮されたメニュー事業であり、施設入所支援と共同生活援助は居住の場を提供することにより生活全般についての責任が求められます。

また、通所事業の就労系サービスでは作業や就職が主なテーマとなり、利用者の生活支援は課題によってとなりますが、生活介護系の日中活動支援では日常生活援助がサービスの目的となるため、新型コロナウイルス等の感染防止対策も居住系と通所系、更に就労分野と日中活動分野では内容もかなり異なるものとなります。

複合施設の強さ・弱さを自覚して二月下旬に「新型コロナウイルス感染症に対する対応」と題した第一回目の周知文(①職員へのお願)②訪問者への掲示③居住系利用者への対応④通所利用者への対応を通知するとともに、各事業所に掲示を実施しました。

さらに、緊急事態宣言を受けて四月上旬に感染防止対策と題した第二回目の周知文(①センター全体の共通順守事項②事業所ごとの対応③事業所間の分離④業務に関する具体的な取り決め事項⑤センター内で新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者が発生した場合の対応)を作成し、職員へ通知するとともに事業所間の往来を遮断しました。

国の緊急事態宣言延長を受けて五月上旬に通知した第二回目の感染防止対策を五月三十一日まで延長する旨の第三回目の周知を行い相談支援職員並びに総務課職員の間テレワーク環境を整え五月十一日より輪番制にて実施をしました。五月下旬に緊急事態宣言解除を受けてアガペセンターの感染防止対策と題した第四回目の周知文(①アガペセンターは現体制を六月七日まで継続し、翌日八日より各事業所の規制を部分的に解除する②基本的事項である利用前の検温、手洗い、うがい、手指のアルコール消毒、マスクの着用、三密防止の徹底を含めた新しい生活様式の実践について通知)をしました。しかし増加傾向にあるため、八月初旬に利用者・職員に向けた「新しい生活様式」の実践例を配布し、多くの利用者が集うアガペセンターに引き続きコロナを持ち込まない・感染させないための協力をお願いしました。

歴史的に繰り返される新たな感染症に命を奪われたり、仕事を奪われたりさまざまな分野に多大な影響を生じている新型コロナウイルスを、全人類の英知を持って鎮静化する日を心より願ってやみません。

「スマイル十年の歩み」

生活支援員 高田 孝行

二〇一〇年九月。座間市相模が丘の地に建てられたアガペセンター初の共同生活援助スマイルは、利用者さん、「ご家族などに支えられ、無事十周年を迎えることができました。まず、この場をお借りして、これまでもスマイルを支えていただきました皆様へ感謝を申し上げます。

さて、「スマイル」の由来はご存じでしょうか。センターとしてグループホームを計画する中、名称について、センター職員、利用者さんに募集することになりました。三十ほどの応募がありました。その中には、桜並木が近隣にあることから、桜にちなんだ候補もありました。最終的には、実際に生活を送る利用者さんを選んでいただき「スマイル」となりました。「豊かな生活の先には笑顔が見える。笑顔で楽しい毎日を皆さんには過ごしていただきたい」と発案者の思いも込められています。

次にこの十年を振り返ってみたいと思います。開所翌年には、東日本大震災。私は、二〇一一年四月に着任したため、当時から在職していた職員より状況を聞きました。経験したことのない揺れに驚き、慌てた職員に対し、お一人の利用者さんは、驚いたのかはわかりませんが、ベッドに腰かけジツとしていました。以降、避難訓練をした際、非常ベルの音に驚きその場に立ち尽くしてしまう場面もあり、実際どのように避難誘導を

したらよいか考えるきっかけにもなりました。しかし今では、非常ベルが聞こえると自然に避難する体勢までできるようになりました。一つひとつ経験を積むことの大切さを感じるようになりました。また、グループホームで生活をするということは、親元から離れる、共同生活をする不安などさまざまな壁もあります。しかし、一つひとつ経験をすることで、「できるか心配。」から「できるように



十年の記念に

「なつた。」と自信につながります。一から十まですべてをできるよくなることを望むのではなく、「今日はここまでできた。」など小さな積み重ねが生活の糧になるとを学ぶことができました。

二〇一四年には、スマイルの経験を活かし、隣地により自立した生活を目指すスマイルIIを開所しました。スマイルから二名の方が

ステップアップを目標に移動をしました。在宅時は、ご家族の協力で行っていた「洗濯をする」など生活に必要な知識を身につけた経験が、新たに入居された方の良い手本にもなりました。

グループホームは、「個」を大切にしていますが、同じ屋根の下で共同生活をします。時には、思い通りにならないこともあります。そのような場面では、我々支援員は先回りすることなく、利用者さん同士で解決することを大切にしています。そこが、グループホームで生活をする楽しみであったり、支援するやりがいにもなります。

これからも「笑顔を決めず、楽しむことを忘れず」を心がけ、障がいのあるなしに関わらず地域生活が当たり前の世の中であることを目指していきたいと思えます。最後になりますが、共に歩んだ職員、利用者さんからこの十年の感想や思いを紹介したいと思います。

アツという間の十年。どうしたらいいの？と右往左往していたころを思い出します。利用者さん、職員に支えられ
今日までこれたことに感謝です。



生活支援員 井上 芳野

長いようで短い十年だったけど、利用者さんの十年先、二十年先の親なき後が心配な思いがあります。



生活支援員 三木 武志

スマイルに入って、体重も減ったし、洗濯もできるようになった。人間関係にはちょっと大変なこともあるけど…。これからの目標は、一人で遠くに電車に乗って出かけられるようになりたい。



利用者 市川 寛一さん

皆でテレビを見たり遊ぶことは楽しい。一人でゆっくりしていることも楽しい。今は、コロナで出かけることができないけれど、早く外出したい。これからも、スマイルの生活も仕事もがんばっていききたいです。



利用者 中玉利 浩さん

「知的短期入所事業について」

課長 竹内 亮

アガベセンター第二作業棟二階の一角に知的障がいをお持ちの方を対象とした単独の短期入所事業（以下、短期入所）を展開しております。今年で十五年目を迎えることができました。この場を借りて心より感謝を申し上げます。

さて今回は改めて私たち短期入所のご紹介をさせていただきます。短期入所は障がい当事者の方（以下、利用者）の宿泊施設です。市内を中心とした地域にお住まいの方が多く利用されています。定員六名四室と小規模な環境ですが、二四時間、三六五日の受け入れを行っております。リビング、浴室などをはじめ特別な設備があるわけではなく、家庭的な雰囲気です。居室はベッド、布団と希望に合わせて用意するようにしています。少しでも自宅と同じ環境にすることで安心して利用していただけるのではないかと考えています。

次に、どのような時に短期入所のニーズがあるのかについて触れたいと思います。主に三つに分けることができます。

① 一緒に暮らす養護者（以下、ご家族）のけが、病気など緊急時

の場合です。利用者の介護を行うことができない場合、短期入所を利用することで利用者の暮らしを保ちます。私たちが一番何とかしなければならぬと考えているニーズです。

② ご家族の休息、時間を作るというニーズです。短期入所を利用することで、外出などの時間を作ることができます。ご家族がホッと一息つける手段があることも大切だと考えています。

③ 自宅以外の宿泊経験を積み重ねたいというニーズです。入所施設やグループホームなど、将来の暮らしに向けた希望が近年では多くなつたと感じます。利用当初はほとんどの方が緊張されていますが、次第に慣れてリラックスして過ごすことができるようになります。短期入所での経験が将来の暮らしに繋がれば良いと感じます。

これらのニーズに応えることで、地域で生活されている利用者、ご家族が「困った時は短期入所に相談しよう。」「疲れた時には短期入所を利用しよう。」と思ってい

ただける場所でありたいと思います。

一方で短期入所専門の事業所として心がけていることがあります。多くの方を支援するので、スタッフはさまざま支援技術を学び、専門的知識を向上することが大切だと考えています。それぞれの障がいの特性を熟知しつつ、利用者個別の支援、関わりをしていきたいと考えています。もう一つ、短期入所ならではの特性があると考えています。それは、毎日ではなく、一ヶ月に一回、半年や一年ぶりというように利用間隔が空いてしまうことです。入所施設のように支援や情報を日々積み重ねることができません。それを補うために、ご家族や関係機関への情報収集を積極的に行うことを重要視しています。久しぶりのご利用でも安全、安心の支援に繋がると考えています。

最後になりますが、今年は早々に新型コロナウイルスの流行があり私たちの暮らしにも大きな影響がありました。そのような中ですが、感染防止策をしっかりと行い十六年目の確かな歩みを進めて行きたいと思えます。地域の中で私たち短期入所の役割をしっかりと捉え、今後も皆様に信頼され、頼られるような存在になっていけるように努力していきたいと思えます。

傷の治し方

診療所 看護師

塚田 かわり



擦り傷や切り傷などの日常的に起こるケガは、十数年前からほとんど消毒しなくなりました。消毒薬は皮膚の細胞に悪影響があることや、消毒薬を使わなくても化膿しないことなどがわかり、傷は消毒ではなく洗い流すことが主流になりました。石鹸と水道水で傷についた細菌や老廃物をしっかりと洗い流すことで、傷の治りが促進されるのです。

また、ガーゼもあまり使われなくなりました。ガーゼを当てていると傷が乾燥し、交換する度に新しくできた皮膚組織もはがしてしまいます。その繰り返しで傷の治りが遅くなります。傷は湿潤状態の方が良いのです。湿潤な環境の中で細胞が活発に働いて自己治癒能力が発揮され、傷は早くきれいに治ります。最近は湿潤療法を用いた色々な絆創膏が販売されているのでそれらの活用をお勧めします。傷は消毒するのではなく洗い、ガーゼではなく被覆材を使って治しましょう。



新人紹介

ひとこと



サニーキッズ保育士
八幡 友子

サニーキッズに入職して八ヶ月が経ちました。先輩方が、日々丁寧に計画を立てクラス運営をする姿からさまざまなことを学ばせていただいています。かわいい子どもたちと優しい職員に助けられ、充実した毎日を通っています。

「ラーメンのひみつ」 課長 山下 博幸

突然ですが、ラーメンはお好きですか？
園の利用者さんの多くは毎日の給食を楽しみにしています。特にうどん、そばなどの麺類は人気で、中でもラーメンは人気ナンバーワンです。人気の理由は「ラーメン好きの人が多からずでしょ。」と思われるかもしれませんが、実はきちんとした理由があるのです。
普段、給食の仕込みは当日の朝から行います。ただ、ラーメンの日は違います。前日のうちに大きな寸胴鍋で鶏がら、野菜（あとは企業秘密）を煮込んでダシをとります。そうです、美味さの秘密



重ねは、安全で美味しい給食を利用者さんに届けようという思いとなり、ラーメンのこだわりスープ作りに繋がっているのではないかと思います。今年にはコロナ禍で楽しみとしていた、外出やイベ

ントが軒並み中止となっていて、利用者さんに楽しんでいただければと、みんなが大好きなラーメンの日に食堂をお店屋さん風に装飾、演出してみました。



はスープのベースにあつたのです。園では給食業務を外部に委託しています。委託業者とは毎月定例の会議で、衛生管理や調理方法の確認、利用者さんによって異なる食形態や盛り付けなどの確認を行っています。そうした積み



同窓生は



高橋 良之さん

現在のお仕事について教えてください。
私はアガペセンターの総務課で午前中働いています。仕事は吉番館南館の居室の清掃や窓ふき、あと作業所や事務所、食堂などの清掃なども行っています。

仕事で心掛けていることは何ですか？
きれいにすること。作業を飛ばさないこと。一つ一つ丁寧にやること。自分のできることを一生懸命行うことなどです。

働いてみて嬉しかったことは何ですか？
部屋の掃除をしていて「きれいになったね、ありがとございます。」と言われて嬉しかったです。やってよかったと思います。自分の仕事を時間内にやり終えると、達成感があるしやりがいを感じるので。

お給料はどんなことに使いましたか？
新しいテレビを買いました。あとは休みの日に実家に帰った時に、ビールを買って飲むことぐらいです。

最後に一言お願いします。
自分が与えられた仕事は、一生懸命にやってやり遂げることが大事だと思いますね。

共に生きる

高座教会 谷中 光秋

私が勤めた教会幼稚園では障がいをもったお子様も、健常児も共に同じクラスで保育を受けています。元気なAちゃんは障がいを持ったお友達に泣いてみると、下から覗き込んで何の屈託もなく「おなか痛いの？」「パンツ濡れちゃったの？」と声をかけ、涙と鼻水でぐちゃぐちゃになった顔にくっつけて心配します。三年間一緒に遊ぶ中でお互いに相手を知り当然のこととして共に受け入れ合います。当たりまえのように振舞える三歳児の姿に大人の私たちは本当に教えられます。

Aちゃんは小学校卒業式でも足の不自由なお友達を支えて出席していました。彼の変わらない姿に大きな感動と喜びをうけたことでした。

マスク等のご寄贈に
感謝申しあげます。

株式会社 大氣社様 手作りマスク

藤井 由紀彦様 マスク

高橋 武弘様 マスク・タオル

携帯用アルコールスプレー
手袋

小松原地区社会福祉協議会様 マスク

ビバリーグリーン

ラボラトリーズ株式会社様

ハンドクリーム